

プラスチック削減の取り組みについて

株式会社JR東日本クロスステーションの直営店舗では、プラスチック資源循環法に対応したプラスチック使用量の削減対策として以下の取り組みを実施しています。

1. 植物由来(バイオマス)素材を40%配合したスプーン・フォークの導入
2. プラスチック製カトラリーの使用抑制に向けた、お客さまへのお声掛け、お受け取り前の意思確認
(ご希望のお客さまに配布)
3. プラスチック資源循環法の普及、啓発に資する情報発信(店頭ポスター、サイネージでの告知)
4. 生分解性プラスチック製ストローまたは、バイオマスプラスチック製ストローの導入
5. 木製マドラーの導入
6. 主な対象店舗
 - ・ NewDays、NewDays KIOSK、KIOSK
 - ・ BECK'S COFFEE SHOP、T'sたんたん、レストラン店舗 等



※店舗により取り扱い状況が異なる場合があります

(プラスチック使用量削減に向けた既存の取り組み)

■ 2020年 4月

「NewDays、NewDays KIOSK、KIOSK」

・バイオマス素材30%配合のレジ袋導入

・生分解性ストローの導入(2021年 2月 バイオマスプラスチック製ストローに切替)

■ 2020年 6月末日

・レジ袋の無料配布終了(7月1日から有料化)



■ 2020年10月

「NewDays」のプライベートブランド「EKI na CAFE」

・カウンターコーヒーホットカップ容器をコンビニ初(当時)「紙製フタ」へ切替

・マドラーをプラスチック製から「木製」へ切替

■2024年10月

・アイスコーヒー容器に、リサイクルPETを25%使用

ストローレスリッド(蓋)を採用



■ 2021年 5月

「駅弁屋 祭」等、弁当販売店にて使用するレジ袋

・海洋性バイオマス(帆立の貝殻)30%含有のレジ袋に切替



■ 2022年 1月

「NewDays」のおにぎりパッケージのプラスチック量削減

(包装フィルムの薄肉化、一部原料としてバイオマスプラスチックを使用)



<p>■ 2022年3月 「From AQUA 白神山地の天然水」に100%再生ペットボトルを使用 PET樹脂の使用量を約13%削減(軽量化)</p> <p>※旧「白神山地の天然水」との比較</p>	
<p>■ 2022年5月 「From AQUA 谷川連峰の天然水」のPET樹脂の使用量を約25%削減(軽量化)</p> <p>※リニューアル前の「From AQUA」との比較</p>	

エキナカ商業施設(エキュート、グランスタ、リエール藤沢等)の取り組み

プラスチック使用量を削減するため、以下の取り組みを実施しております。

1. プラスチック製カトラリーの使用抑制に向けた、お客様へのお声掛け、お受け取り前の意思確認
(ご希望のお客さまに配布)
2. プラスチック資源循環法の普及、啓発に資する情報発信
(店頭ポスター、サイネージでの告知)

※施設の一部ショップでは、特定プラスチック使用製品の有料化や、代替素材への切り替え等を行っています。



今後も、プラスチック使用量の削減や、環境に配慮した素材への切り替えなど、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。